注意報　注意報　注意報　注意報　注意報　注意報　注意報　注意報

６０１１－１９６６
平成３１年　２月２７日

各関係機関の長
各病害虫防除員　殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成３０年度病害虫発生予察注意報第５号について

平成３０年度病害虫発生予察注意報第５号を発表したので送付します。

平成３０年度病害虫発生予察注意報第５号

イチゴのヒラズハナアザミウマの発生が多くなっています。
ほ場を確認し、発生が多い場合は防除を行いましょう。

１　病害虫名　：　ヒラズハナアザミウマ

２　作 物 名　：　冬春イチゴ

３　発生地域　：　県下全域

４　発 生 量　：　多

５　注意報の根拠

１）２月中旬の巡回調査における発生面積率は 33.3%（前年 16.7%、平年 13.3%）、寄生花率は 6.2%（前年 2.3%、平年 1.1%）で発生面積率が**平年よりやや多**、寄生花率が**平年より多**の発生である（図１）。**寄生花率 10%以上で被害果が発生する恐れ**があるため、注意が必要である(生咲ら，2005)。

２）向こう１か月の気象予報では、気温が平年に比べ高い傾向が続くと予想され、本種の生息に好適な条件が続くと考えられる（鹿児島地方気象台２月１４日発表１ヶ月予報）。これからの時期、気温の上昇に伴い施設内での発生が増加するとともに外からの飛び込みも多くなるため注意が必要である。

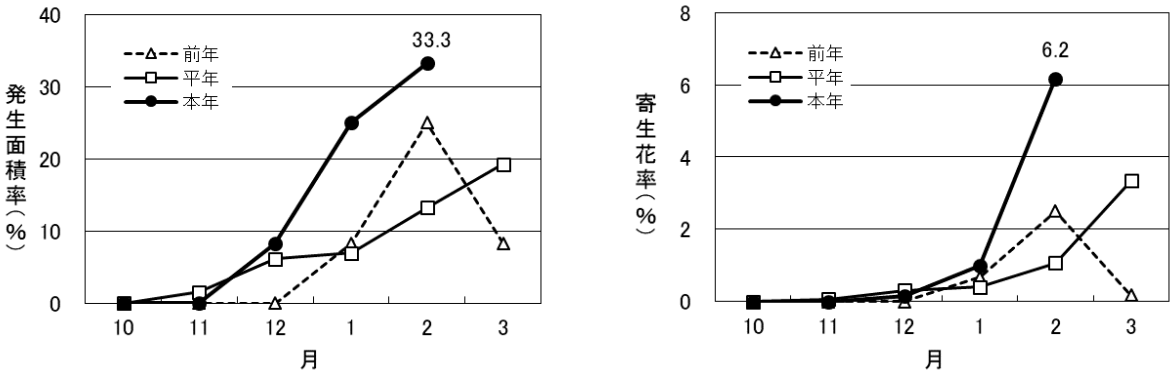

図１．ヒラズハナアザミウマの発生面積率(左)と寄生花率(右)の推移

6　防除上の注意

1）施設内および周辺の雑草は、発生源となるので除草する。

2）薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。

3）ヒラズハナアザミウマは、主に花の内部に生息することから、花への薬剤の付着性を高めるために、できるだけ展着剤を加用する。

4）天敵や訪花昆虫に対して影響の少ない薬剤を選択する。

5）青色に誘引されるため、青色粘着板を設置し、誘殺による継続的な密度低下を図る。

6）高密度の防除は困難なので、低密度のうちに防除する。多発時には、卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、卵と蛹には薬剤がかかりにくいので、最少でも７日間隔で連続防除を行う。

7　その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

《連絡先》
宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
（病害虫防除・肥料検査センター）松浦・倉永
TEL：0985-73-6670　　FAX：0985-73-2127
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp